

令和元年度 高大連携海外フィールドワーク（台湾）実施報告

経営学部 教授 田中 武憲

令和元年12月24日～28日、高大連携事業の一環として、名城大学の学生（経営学部4年・2名）および名城大学附属高校の生徒（1～2年・11名）が、名城大学が国際交流協定を締結している台湾・台中市の国立台中科技大学を訪問、交流と共同研究調査を実施した。

本事業では、訪台前から台中科技大学の教員・生徒と密接に意思疎通を取りつつ、フィールドワークの経験が豊富な大学生が適宜、指導して台湾でのフィールドワークのテーマを設定。世界的に大きな問題となっている「プラスチックごみ問題」をはじめ、「女性の社会進出」や「ジェンダー・ギャップ」、有効な「都市の観光PR戦略」を研究課題として、日本と台湾の学生・生徒が混生でグループを結成し、台中市内で企業や店舗の訪問調査や街頭でのインタビュー調査を実施した。

同調査結果は、現地で学生が協力してパワーポイントによる報告資料を作成し、台中科技大学の教員も参加して報告会が開催された。

ワークショップ風景



報告会風景

